

# タジキスタン投資プレゼンテーション

## —経済の現状と有望プロジェクト—

### はじめに

ロシアNIS貿易会では、2016年10月26日、タジキスタンを代表する大企業、タジキスタン・アルミニウム会社 (TALCO) を筆頭とする同国企業代表団の訪日に合わせて、東京にて「タジキスタン投資プレゼンテーション」を開催した。

タジキスタンは中央アジアの東南端に位置する内陸・山岳の小国である。独立直後に内戦が勃発し、1990年代は大きく経済発展が遅れていた。政情が安定した2000年以降は順調に経済発展を進め、経済復興が急ピッチで進められている。しかし、石油やガスといった炭化水素資源に乏しく、アフガニスタンと国境を接しているため安全保障が懸念されることもあり、投資・貿易といった観点で日本を含む外国からの関心は他の中央アジアに比べて薄い印象が強い。

しかし、今般のプレゼンテーションの中で、同国の投資環境が改善されつつあること、安全保障の確保にも国を挙げて取り組んでいることが報告され、様々な分野の投資プロジェクトも紹介された。そこで、以下では、日ごろ情報の少ないタジキスタンについて知るための有意義な機会となった投資プレゼンテーションの報告内容をお伝えする。

### タジキスタンのビジネスの可能性

#### Kh.ザリフィ駐日タジキスタン大使

タジキスタンは、まだ日本のビジネス界で

あまり知られていない国である。今日のプレゼンテーションを通じて、タジキスタンとの協力に向けた理解を深めてほしい。

タジキスタンは人口約900万人、面積は日本の5分の2という小国だが、大きな可能性を持っている。その1つが水資源である。中央アジアの水資源の60%はタジキスタンで生み出されており、経済の優先分野の1つが電力、特に水力発電である。現在、タジキスタンには豊富な水資源があると言われているが、そのうち5%しかタジキスタン国内で利用されていない。つまり、95%は余裕があるので、水力発電所を建設し、水資源を活用することが可能である。

タジキスタンにはすでに様々な規模の発電所がある。1 MWという小規模なものから、ログーン発電所のように4,000 MW規模の大規模な発電所もある。また、45年前に作られたヌレク発電所は今も稼動しており、その設備の優秀さでは世界で十指に入る高効率な発電を実現している。

水力発電所を建設するにあたって発電機、タービン、その他の電気設備、変電設備等が必要になる。現在、タジキスタンでは主に中国製、またはウクライナやロシア製の設備を購入しているが、日本の技術レベルは高いので、技術分野での協力が可能になると思う。ぜひ投資や資本参加を検討してほしい。

もう1つの優先分野は鉱物資源開発である。タジキスタン全土に、金、銀、カドミウム、半導体原料、エレクトロニクスの原料になる

様々な鉱物の産地が広がっている。

タジキスタンでは大変良い投資環境を整えており、物品税や付加価値税の税制優遇などの条件が揃っている。また、タジキスタンでは外貨交換に制約がないことも強調したい。

タジキスタンでは質の良い野菜や果物が豊富に生産されているので、農業分野でも日本に関心を持って頂けると思う。私自身、ほぼ1年前から日本に在任し、果物に注目してきた。日本で売られている果物の中でもアプリコット、スモモ、サクランボ、レモンについては、タジキスタンも負けないと自負している。ただ、実際にタジキスタンの果物を日本市場に出すとすると、欠けているのは美しい包装、長期保存するための機械設備、近代的な冷蔵設備といったことになるので、こうした分野で日本企業に協力していただき、農産物加工分野のプロジェクトを推進してほしい。

次に強調したいのは安全の問題である。フィジカルな安全と投資資金の安全、どちらもビジネス展開には重要になる。投資の安全という観点では、過去25年間でタジキスタンの法律は国際水準の法律に一致する内容となってきた。外国投資家についても十分に考慮されており、例えば外国投資家が企業を設立して生産した場合、その生産物のすべて、あるいは一部を自由に輸出することができる。

フィジカルな安全については、ご存知のようにタジキスタンはアフガニスタンと500kmの国境を接しているので、多くの投資家がタジキスタンも危ないのではないかと懸念している。しかし、独立後の25年間を振り返ってみると、他国からの軍事介入や侵入は一度もなく、国内でテロリストによる大きな事件も起きていない。もちろん我々はアフガニスタンとの国境管理にはたいへん注意している。アフガニスタン領内の国境地帯には、1,400万人もの民族的タジク人が住んでいる。



Kh.ザリフィ駐日タジキスタン大使

タジキスタンに800万人のタジク人が住んでいるので、タジキスタン国内より多くのタジク人がアフガニスタンに住んでいることになる。国境付近に住んでいる住民の中には食料品をタジキスタンから供給されている人たちも多く、彼らの経済はタジキスタンの安定、安全に大きく左右されるので、国境の住民は安全の確保に大きな関心を持っている。世界中で爆破事件やテロ事件が起きているので、心配かもしれないが、日本と同じように、タジキスタンは安全である。

## TALCOの生産発展の方向性と経営・ファイナンス活動

### Sh.カピロフ TALCO会長

TALCOの最も重要な戦略目標は、地元の原料を使ったアルミニウム生産の実現である。ソ連時代にタジキスタンに設立されたアルミニウム工場は、原料を他の共和国から運んでいたため、今も、アルミニウム生産のための原料は外国からの輸入が大部分を占めている。



Sh.カピロフTALCO社長

これを地元産に切り替えるという戦略に沿って大きな成果を上げてきている。

また、TALCOはアルミニウム生産だけでなく、他の分野も展開している。その1つが石炭からガスをつくる、Coal-To-Gas技術だ。TALCOは石炭のガス化に取り組んでいるタジキスタン唯一の企業で、ドイツの設備を使っている。タジキスタンには非常に質の良い石炭があるので、共同でコークス炭の採掘、日本への輸出に取り組んでいけるのではないかと思います。

2年前には「TALCOケーブル」という会社を傘下に設立し、ヨーロッパの高い技術を用いて生産を行っている。最近では、タジキスタン独立25周年を記念して、ラフモン大統領が化学分野で3つの企業を設立し、その1つが「TALCOケミカル」という会社で、硫酸を作る非常に大きな生産能力を持つ工場となっている。2016年の8月には鉱山コンビナートも設立した。これは蛍石を採掘し、フッ化カルシウムを作る工場、タジキスタンの冶金産業に重要な意義を持つ。最新の技術、設備を用いた工場、価格競争力も非常に高いので、日本の市場でも十分に競争力を持つと思う。タジキ

スタンで最大の金鉱山の開発会社「TALCOゴールド」は、第一期の開発において、金55 t、アンチモン26万8,000 tを生産した。アンチモンの埋蔵量でタジキスタンは世界第1位である。

TALCOはPPP（Public Private Partnership）をベースに外国パートナーと組んで事業展開しているの、ぜひ日本にもパートナーとして、特に紹介した優先プロジェクトについて一緒に取り組んでいただきたい。

日本の市場は高度に発展した市場だが、労働力も税金も高く、また電力料金も高いと聞いている。アルミニウム産業のような大量電力消費分野においては、電力が安く、事業展開に有利なタジキスタンでアルミニウム生産、将来的にはアルミニウムを使った部品製造、アルミニウム製品の製造などでも協力していただきたい。

## オリエンバンク

### —タジキスタンの金融セクターをリードする

#### Sh.イスマトウロフ・オリエンバンク第一副総裁

今年、タジキスタンは独立25周年を迎えるが、オリエンバンクも、1991年に独立後のタジキスタンで最初のフルバンキングライセンスを得て、産業建設銀行「オリエンバンク」として業務を開始したので、設立25周年を迎える。

弊行はタジキスタンの金融分野のリーダーとして、様々な分野で活発に業務展開している。タジキスタンで最初に米国シティバンクにコルレス口座を開設し、EBRDからタジキスタンで初めてのクレジットラインを受け、2000年にはタジキスタンの銀行で初めてSWIFTコードにも参加した。2002年にはタジキスタンの銀行で初めてVISAインターナショナルのパートナーとなり、同年に送金サービス会社Western Unionのタジキスタンで最初の

パートナーにもなった

弊行は現在、タジキスタン国内に32の支店を持ち、英国、中国、ロシア、カザフスタン、UAEに代表部を置いている。

オリエンバンクは、当初、産業建設銀行と呼ばれており、事業対象も産業建設分野のプロジェクトであった。TALCOやエネルギー省、同省傘下の企業が長年の顧客であり、特に水力発電所に対して、サービスを提供している。中央アジア最大の水力発電所であるヌレク水力発電所や独立後のタジキスタンにとって大プロジェクトの1つであるサクトゥダ第一水力発電所にも弊行が融資しており、現在建設中で、世界一の水力発電所になるログーン水力発電所のプロジェクトについても弊行が融資と様々なサポートをしている。

国際機関や各国大使館との付き合いもあり、大使館へもサービスを提供している。日本大使館とも緊密な付き合いがある。外国の銀行とのパートナーシップという点で、米国のシティバンク、ヨーロッパのHermesバンク、ロシアのズベルバンク、VTBバンク、スヴァジバンク、プロムスヴァジバンク、中国のいくつもの銀行と緊密な関係がある。そして、ドイツのEuler Hermes信用保険会社、ロシア輸出信用投資保険庁、中国のYema Group、カザフスタンのKazExpoGarantなど貿易保険提供機関とも提携している。これからは日本の金融機関とも協力・提携し、コルレス契約や日本企業の事業展開を支援していきたい。

## Delivering Energy from New Frontiers !

### N.シャリフィ Skyland Petroleum Group

#### 南・中央アジア・ロシア戦略ビジネスユニット長

Skyland Petroleum Groupは2007年からタジキスタン政府の支援を受けながら、外国投資家として活動してきた。

タジキスタンには外国投資家が活動するためのすべての条件が整っている。たとえば、石油・ガス分野では、外国投資法、生産分与(PS)法、地下資源利用法がある。これらの法律に従って、非常に良い優遇策が提供されている。たとえば、PS法によると、契約の実施期間中、石油・ガス採掘作業に関わるあらゆる技術・機械設備について、VAT(付加価値税)が免除される。

タジキスタンは北も南も非常に大きな盆地に囲まれている。その1つがフェルガナ盆地であり、非常に資源豊かなことで知られる。ソ連時代に地質調査が行われたが、タジキスタン部分は開発が十分に行われなかった。日本が地質探査と地下資源採掘に関わるチャンスもある。それからもう1つ世界クラスの大きなアムダリヤ盆地はアフガニスタン、トルクメニスタン、南タジキスタンにかかっている。まさにこの地域では世界的メジャーのトタル、CNPC、ガспромが事業を展開している。他にも未開発地域がたくさんあるので、この分野のポテンシャルに注目してほしい。

## おわりに

タジキスタンの基幹産業は豊かな水資源を生かした水力発電とこれを利用したアルミニウム精錬および農業である。2009年にはまさにその農業分野で初めて日本との合弁会社が設立され話題となった。しかし、日本では知名度が低く、情報も少ないため、タジキスタンのポテンシャルははっきりとしていない。

そうした状況の中、日頃なかなか知ることのないタジキスタンについて貴重な情報を得る機会を提供してくれた駐日タジキスタンにこの場をお借りして感謝したい。そして、今後日本とタジキスタンとの経済関係が発展することを強く願う。

※本稿は『ロシアNIS調査月報2017年1月号』にも掲載されています。